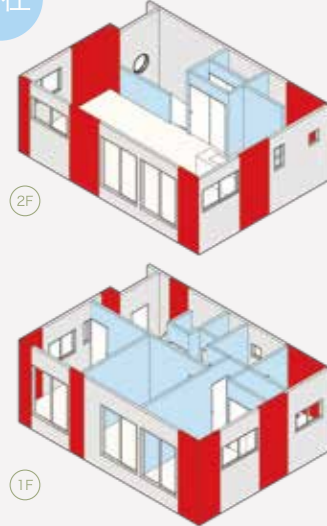


## ライフスタイルの変化に応じて、住空間を変えられる。

柱と梁で支えるラーメン構造のSE構法®が生み出す空間は、壁の制約を受けない自由な空間。  
ワンルームのまま広く贅沢に使うことも、部屋を分けて使うことも、その時その時に必要な空間をいつでも手に入れることが可能となります。  
SE構法®は、建てた後もライフスタイルの変化に応じて自由に住空間を変えることができる構法なのです。

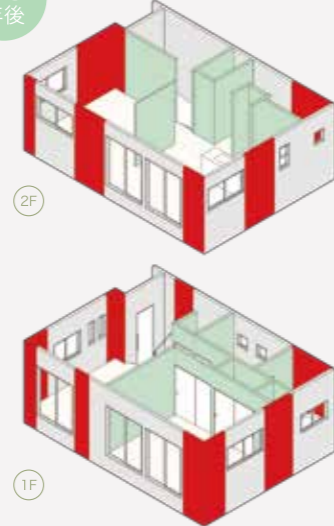
現在  
3LDK PLAN (夫婦+子供2人)



1階に子供部屋2室と主寝室などのプライベートルームをレイアウトし、見晴らしの良い2階にLDKを中心としたファミリールームをレイアウトしたプラン。2階はワンルーム感覚で、親子のコミュニケーションを育むスペースとしています。



15年後  
1LDK+ホール PLAN (夫婦)



子供達の独立を期に夫婦中心の暮らし方に空間のレイアウトを変更。主寝室を広くとり、1階のホールにピアノ/教室用のスペースを。2階はリビングを独立させ、お友達などの来客・宿泊にも対応できるゆとりあるプランに。



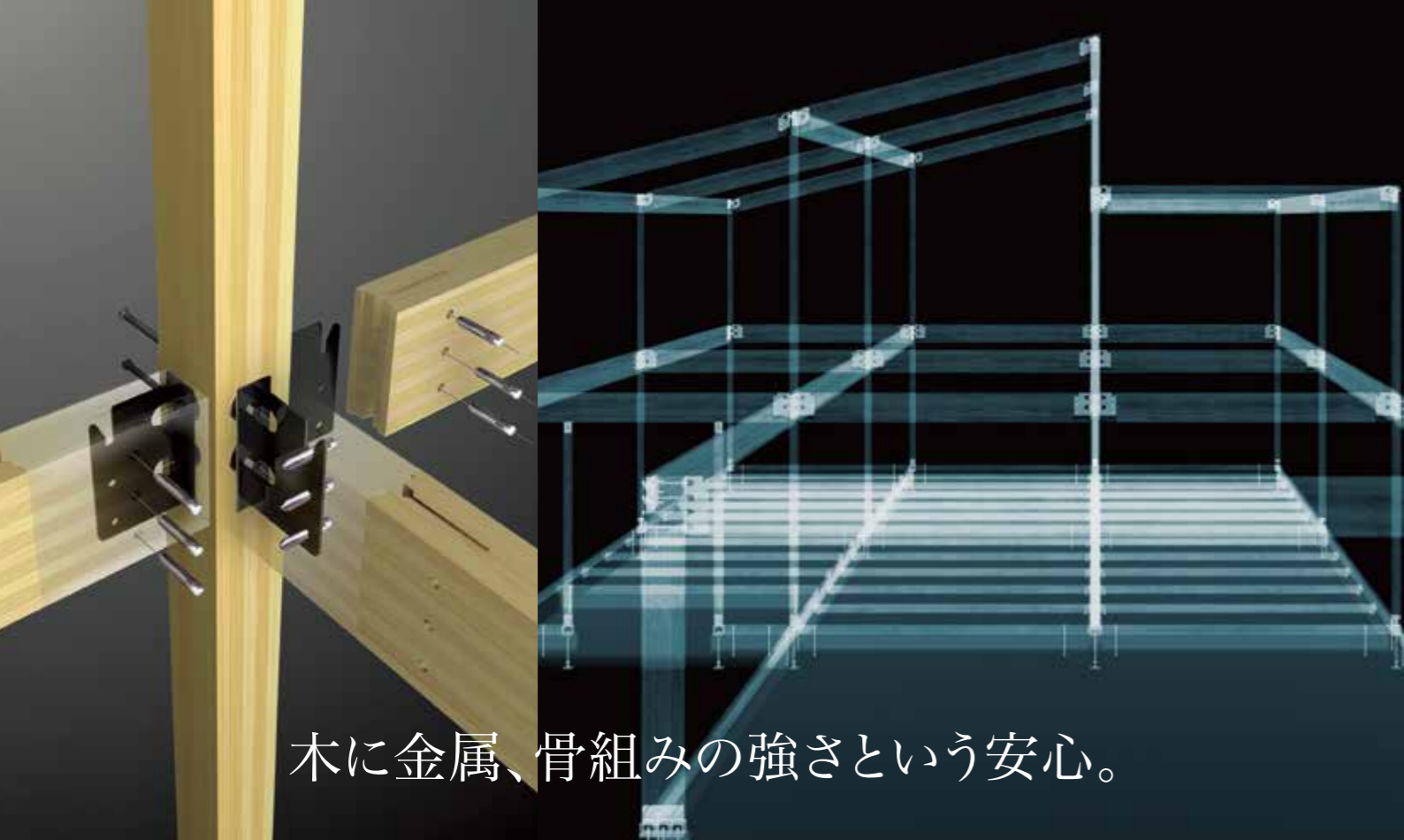
30年後  
4LDK PLAN (夫婦+子供3人)



親世帯が田舎に引越し、代わって子世帯が夫婦と子供達3人の暮らしを始めるプラン。夫婦の主寝室を2階LDK脇に設け、1階には3人それぞれに子供部屋も確保しています。



耐震構法  
SE構法®



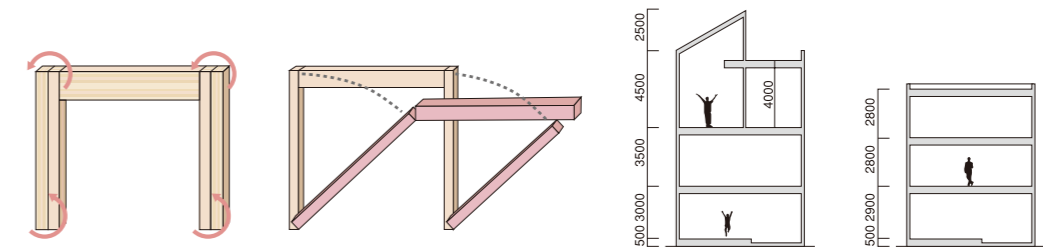
木に金属、骨組みの強さという安心。

安心と安全が住宅建築のかたちになりました。強度の高い集成材の接合部に、独自の金物を用いるSE構法®は、在来の軸組工法と比較して、断面欠損の少ない強固な接合部を生み出します。接合部が強靱であることにより、柱と梁のみで揺るぎない強度の骨組みを生み出せます。柱と梁で建築を支える構造を「ラーメン構造」といいますが、SE構法®は接合部を強化した堅牢なラーメン構造。骨組み全体で建築を支えるので、まさに家そのものが大黒柱であるといえます。柱や区画の壁が少ないために、光を取り入れる大きな開口部や窓、出入り口、そして広々とした吹き抜け空間が安全に実現できます。東日本大震災において、SE構法®で建てられた建築物の地震による倒壊はゼロ。地震国日本を安全・安心に暮らしていくために、耐震構法・SE構法®をご活用ください。

## 100年以上の耐久性が「SE接合金物」の品質基準

### 構造用集成材とSE金物の耐力フレームが造る準ラーメン構造

構造を基本的にフレームで支える準ラーメン構造を実現したSE構法®。一つのフレームユニットで最大8メートル×5メートルの大空間を造ることを可能にしました。また高さは木造住宅では日本で初めて軒高12メートルまでの建築を認められた構造です。一般の木造住宅は、軒高9メートルまでの高さに制限されているばかりでなく、ワンルームの大空間を取ろうとしても建築基準法で定められている一定の壁を入れなければならないので、空間が耐力壁によって遮られてしまいSE構法®のような開放的な空間は実現できません。



SE構法®の準ラーメン構造

柱と梁を強固に接合した耐力フレームと構造用合板で、建物の変形が起きにくい安定した構造を作り、さらに大きな空間や自由な間取りも可能となります。

在来工法

柱と梁を単純につなぎ、筋交いで変形を抑えるので大きな力に耐えきれません。また、耐力壁(筋交い)で強度を保持するため、外せない壁が増えてしまいます。

SE構法®の軒高

木造住宅では日本で初めて軒高12メートル\*までの建築を認められた構造です。  
\*軒高9メートルを超える場合は、適合性判定が必要となります。

在来工法

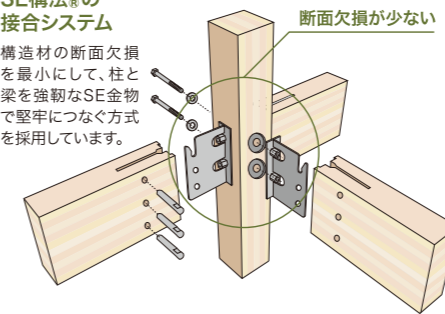
一般の木造住宅は、軒高9メートルまでの高さに制限されています。

### 断面欠損を最小にした、地震に強い接合システム

一般的な木造住宅は、接合部に柱や梁の断面欠損をまねき構造材本来の強度低下を起こしてしまいます。SE構法®は大きな揺れに対しても接合部が破壊されないテクノロジーを追求し、独自開発のSE金物を使用した断面欠損の少ない構造によって柱と梁を堅牢に接合し、優れた耐震性能を実現しています。

SE構法®の接合システム

構造材の断面欠損を最小にして、柱と梁を強靱なSE金物で堅牢につなぐ方式を採用しています。



在来工法による断面欠損の例

在来軸組工法は接合部を堅牢につなぎきれず、揺れに対して柱と梁が離脱・破壊する危険性が高い接合方法です。

